

“スバル純正のハイクオリティエンジンオイル「レ・プレイヤー」を開発する”

トタル・ルブリカンツ・ジャパン マトレ代表に 独占インタビュー

加速フィールも良い、燃費も良い、静粛性も高い、すべての条件を満たしている。そんなエンジンオイルがあるのだろうか？ スバルが純正として扱っている「レ・プレイヤー」はまさにそれに限りなく近いパフォーマンスをみせるハイクオリティオイルとして高い評価を得ている。それもそのはず。エンジンを開発しているスバルと共同開発で「最適解」を導いているのだから。

今回は、そんな「レ・プレイヤー」を開発している「トタル・ルブリカンツ・ジャパン」代表取締役社長のエマニュエル・マトレ氏に話を聞くことができた。

編集部 世界スーパーメジャーと呼ばれるフランスのトタルの潤滑油部門を歴て、現在は「トタル・ルブリカンツ・ジャパン」の代表取締役社長をされているわけですが、これまでの経歴を教えてくださいませんか？

マトレ氏 はい、私はフランス人で、大学では機械系エンジニアリングを勉強していました。2004年に「トタル」に入社して、製品開発を担当する部署で、主にATFなどトランスミッションオイルを開発していました。その後、営業開発を担当する部署に異動し、日本の石油メーカーとのパートナーシップや、日本の自動車メーカー、建設機械メーカーなど、世界規模でビジネスを展開しているグローバル企業とのビジネス開拓を主に担当しました。2012年から2014年にかけてトヨタがWEC（ルマン24時間を含む耐久レースの世界選手権）にTSO30 Hybrid、TSO40 Hybridで参戦。トタルがスポンサー

TOTAL LUBRICANTS JAPAN

Managing Director
Emmanuel MATRAY



トタル ルブリカンツ ジャパン
代表取締役社長
エマニュエル マトレ

フランス生まれのフランス育ち。2004年TOTALに入社し、ATFなどの製品開発に携わる。大学時代に学んだ機械系エンジニアリングのノウハウを活かし、開発現場にて活躍。オイル担当エンジニアとして、かのF1ドライバー、アラン・プロストなどと帯同した経験も持つ。2017年「トタル・ルブリカンツ・ジャパン」社長に就任。現在は東京在住。日本での愛車はプジョー308。趣味は観光。

だった頃に、トヨタとのビジネスを担当し、ルマンにも緒に行っていました。2017年からは「トタル・ルブリカンツ・ジャパン」の社長に就任し、東京に在住。日本国内のマーケットを開拓する仕事をしています。

編集部 トタル社は世界中でビジネスをしている大きな会社ですが、自動車業界における位置づけというのはどう感じなんでしょうか？

マトレ氏 トタルは世界的な石油メジャーのひとつで、石油や天然ガスの採掘から精製、販売、太陽光エネルギー、風力発電、バイオマスなど再生可能エネルギーにも注力しています。欧州では、水素ガスマネーションをBMWやトヨタなどと協力して展開しています。総合エネルギー企業なので、様々な自動車会社に工場充填用オイルや、ディーラーへの純正オイルなどを供給しています。プジョー、シトロエン、ルノーなどのフランスメーカーだけではなく、欧州の日産やマツダ純正オイルなども手がけています。

編集部 もちろんトタル社がメジャーだったことは知っていましたが、マトレ社長から直々にお話を伺うと、その規模の大きさに圧倒されてしまいます(笑)。では、スバル車に対してどういう印象をお持ちですか？

マトレ氏 独自のスタイルを持っていて、さらには開拓者の精神も強い。運転する人にフューチャーしたクルマ作りをしていると感じています。この部分は日本の他のメーカーよりも非常に強いと思っています。実際にドライブングすると、その楽しさがヒンヒシと伝わってきます。これは凄いいことだと思っています。

スバルと二人三脚で開発しているからこそ 自信を持って「最適解」と言える

編集部 マトレ社長自身が、実際に日本に運転することもあるんですか？

マトレ氏 はい。観光が好きなので、愛車で大好きな温泉に行ったり、観光に行ったりしています。鎌倉や日光、富士山なども行きました。

編集部 おお！ ザ日本の場所ですね!! 渋滞とか大変だったりはしないですか？

マトレ氏 問題ありません。日本で運転するのは好きです。日本に赴任しているもうひとりのフランス人がレヴォーグを購入する予定なので、運転させてもらって観光したいなと思ってしています(笑)。

編集部 そんなスバルとの共同開発についてお伺いしても良いでしょうか？

LES PLÉIADES ZERO OW-30 スバル純正プレミアムエンジンオイル レ・プレイアド・ゼロ



マトレ氏 スバルとは15年以上一緒にビジネスをしています。レ・プレイアド(フランス語でスバル星団を意味する)という名前のエンジンオイルを開発し、長年に渡って多くのスバルユーザーに愛用してもらっています。スバルは水平対向エンジンという特徴のあるエンジンテクノロジーを持っており、そのスペックや要求性能にフィットする製品を共同開発してきました。

編集部 レ・プレイアドの開発で最も気を付けた部分などはありますか？

マトレ氏 水平対向エンジンは左右にピストンが動くため、油膜を均一に保持するのが難しい。高性能ターボエンジンなので、油膜の保持は必須です。だからといって高粘度オイルで油膜を死守するのは、デメリットもある。そのため、低粘度でも高温時

THE BEST OIL for SUBARU スバルの高度なテクノロジーを支えるオイル

レ・プレイアド・ゼロ
OW-30

- 100%化学合成油
- SAE粘度 OW-30
- ACEA規格 A3/B3 A5/B5



レ・プレイアド・ゼロはスバル純正のプレミアムオイルなので、全国のスバルディーラーで交換することが可能。お得なメンテナンスプランなどもディーラーによって取り扱っているのチェック。身近なディーラーで最上級オイルを体験できるのも大きなメリットのひとつだ。

レ・プレイアドWebサイト
<http://www.pleiades-zero.com>



の油膜を保持できる、そんなオイルをスバルと一緒に厳しい耐久試験などを繰り返しクリアしてきました。その結果、OW-30という低粘度な部類のオイルでも、高いパフォーマンスを発揮できる「レ・プレイアド・ゼロ」が完成したのです。また、厳しいテスト結果による、数値的な性能の高さだけでなく、スバルの特徴でもあるドライブングプレジャーを感じられるように開発をしてきました。

編集部 さらに今後、新しい商品展開などはあるのでしょうか？

マトレ氏 企業秘密があるので、具体的な内容はお教えできないのですが、私が自信を持って言えることは、トタルの技術チームとスバルはすごく親密に仕事をしています。スバルの将来的な技術開発のために、ディスカッションを重ね、それにチャレンジするためのソリューションを提供しています。新しい「レ・プレイアド」も現在開発中なので、それもぜひ期待して待っていてほしいです。

多くの熱狂的なファンを持つスバル。これは他自動車メーカーではなかなか例をみないところ。レ・プレイアドはエンジン内部の潤滑油として高い品質を誇っているが、実際このオイルを使っているユーザーの多くは「走りが変わった」「燃費が良くなった」「暖気時間が少なくなった」といった効果を口にしていて、スバルが目指している走りの楽しさ。レ・プレイアドを使うことで、それをさらにユーザーがダイレクトに感じる事ができる。エンジンオイルとしての機械的な「潤滑」という役目だけでなく、スバルのクルマとユーザーをつなぐそんな「潤滑」さえ担っていると「言っても過言ではない」「レ・プレイアド」。まだ未体験の人はこれを機会に是非。これだけの高品質オイルが、スバル純正ということと、最寄りのディーラーで交換できる。これも大きなメリットのひとつといえる。